

第II卷・第3號

(通卷第5號)

近畿甲蟲同好會

會 報

昭和22年5月

昭和二十二年五月二十一日印刷
昭和二十二年五月二十五日發行

兵庫縣川邊郡寶塚御殿山
編輯兼 大 倉 正 文
發行人
大阪市旭區新森小路中二丁目九四
印刷所 宏榮社印刷所
兵庫縣川邊郡寶塚御殿山
大倉正文方
發行所 近畿甲蟲同好會

THE TRANSACTIONS OF
VOL. II, NO. 3. THE KINKI COLEOPTEROLOGICAL SOCIETY

MAY 1947.

コウヤホソハナカミキリの學名 及び變異に就いて

大 澤 省 三

(第八高等學校)

ON THE SPECIFIC NAME OF SO-CALLED
"STRANGARINA KOYAENSIS MATSUSHITA",
AND ITS VARIATIONS. (COLEOPTERA
CERAMBYCIDAE).

By SYOZO OSAWA

I. 緒 言

コウヤホソハナカミキリには今日 *Strangalina koyaensis* MATSUSHITA なる學名が一般に用ひられてゐる。筆者は本種の分布及び變異に對して興味を抱き、若干の材料を蒐めて調査してみた處、西南部日本に産するものと、中部山岳地方に産するものとは色彩上から判然たる別亞種として區別し得る事を知り、且從來 *Strangalia duodecimguttata* FABRICIUS の synonym とされてゐた *Leptura* (*Strangalia*) *harmandi* PIC はコウヤホソハナカミキリに於ける中部山岳地方の亞種に該當する事が判明した。依て茲に小文を草して諸賢の御參考に供し、併せて公正なる御批判を給り度く思ふ。本論に入るに先立ち本文の御校閲を煩した態澤正夫教授、並びに終始多大なる御指導と御援助を與へられた中根猛彦・林匡夫・大倉正文三氏に對して深厚なる謝意を表する。

II. 本 論

Strangalina harmandi (PIC) コウヤホソハナカミキリ

Leptura (*Strangalia*) *harmandi*, PIC, Bull. Mus. Hist. Nat. Paris, VII, (2), 1901, p. 61.

本種は以前駐日佛國公使たりし HARMAND 氏の採集品に基き記載されたものであるが、その記載が簡単な爲次の如き諸説が出るに至つた。

1. 松下真幸博士は harmandi を獨立種と認め乍ら同時に koyaensis を新種として記載した。

2. 水戸野武夫氏は同氏の目録中に koyaensis を獨立種となし、harmandi を *Strangalia duodecimguttata* (FABRICIUS) の synonym として收録した。

3. 玉貫光一氏は水戸野氏の意見に従ひ、koyaensis を獨立種として記載し、harmandi を *duodecimguttata* の synonym とした。その理由としては特に觸角の黑色なる事を挙げたが、前胸背板の形狀は koyaensis に類似するから之と同一なものか、或は一獨立種かも知れない旨示唆した。

筆者は再検討の結果 harmandi を *duodecimguttata* の synonym とするよりも、むしろ koyaensis を harmandi の一地方的變異(亞種)と見做す事に首肯した。次にその理由を列記する。即ち、

1. harmandi の記載中の前胸背板の後縁角が突出し、雄にあつては細長、雌に於ては稍強壯なる點は *duodecimguttata* よりもコウヤホソハナカミキリに一致する。

2. harmandi の記載中雌雄の体及び翅鞘の形狀を異にし、体は雄に於て細長、翅鞘の幅も狭い旨記されてゐるが之は *duodecimguttata* には該當せずコウヤホソハナカミキリによく一致する。

3. 玉貫氏が harmandi を *duodecimguttata* の synonym とした大きな理由は觸角が黑色を呈する事であるが、後述の地方的變異により中部山岳地方産の個体は凡て黑色を呈するか、又は殆ど黑色に近い。

4. 体下面の黑色なる事は 3 と同様中部山岳地方の個体に於て通常見られる所である。

5. コウヤホソハナカミキリは通常翅鞘に 3 黄帶を持つ個体が多いが後述の如く雌雄共第 4 黄帶が屢々出現する。

6. その他の特徴は鞘翅第 1 紋の形狀を除きコウヤホソハナカミキリによく一致する。

7. PIC 氏は翅鞘黄帶の狀形を “la premiere, anterieurs arquee et isolee chez male, presque droite et commune female la deuxieme plus ou moins oblique et avant le milieu, la troisieme transversale apres le milieu, la quatrieme l'extremite” と記して居り、第 1 紋を除けば之に該當するコウヤホソハナカミキリは少なくないが、雄の第 1 紋が “arquee” と云ふのはどの程度のものか疑問であり、又雌の第一紋が “droite et commune” なる個体が今迄に一度も見てゐないが互に接近して一見帶狀をなす事がある。第 1 紋の形狀が稍一致しない點から見れば玉貫氏の云はれる如く harmandi は koyaensis と同 *duodecimguttata* と同別な獨立種かも知れないし、少くとも

duodecimguttata と別なものである事は確からしい。しかしかかる 變化 多き斑紋を記載の上で検討する時は不一致な點が出來易いもので、單なる第1紋の形狀のみに依つて harmandi と koyaensis を別種とするよりも、むしろ type を檢する機會を得る迄は兩者を同物異亞種として取扱つた方が穩當と考へられる。

その他比較的 harmandi の記載に近い種類としては *Strangalia ochraceofasciata* (MOTSCHULSKY), *S. arcuata* (PANZER) f. *mimica* (BATES), *S. subtilis* (BATES) 等が擧げられるが之等は前記諸特徴を檢する時恐らく關係のないものと思はれる。

地 方 的 變 異

中部山岳地方に産するものと、西南部日本に見られる本種とは夫々別亞種として區別する必要を認めたので、koyaensis を西南部日本産のものの亞種名として存続せしめる事にした。以下兩亞種を分つ特徴を示す。

Strangalina harmandi harmandi (PIC) (Fig.1.)

Leptura (*Strangalia*) *harmandi*, PIC, Bull. Mus. Hist. Nat. Paris, VII, (2), 1901, p. 61.

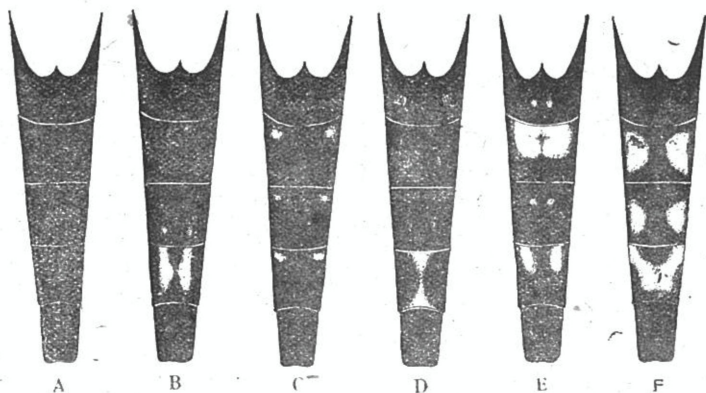


Fig. 1. *Strangalina harmandi harmandi* 腹部色彩の變異
A. Normal form, B—D. Aberrant form (中部山岳産)

觸角は黑色、又は黑色なれど先端1~2節は黑色に近い暗色を帶ぶ事がある。腹部は雌雄共漆黑色、但し雄に於ては若干の個體變異がみられる。

本州中部山岳地方(上高地・信州富士見臺・木曾駒岳)の個體を檢し得たが、松下眞幸博士は美濃飛驒産の1頭の雌について報告されてゐる。又 HARMAND 氏の採集品も同時に PIC 氏に依つて記載された他の種類と併せ考へるに信州上高地邊りか又は日光附近の採集品ではなからうかと推定される。

Strangalina harmandi koyaensis (MATSUSHITA) (Fig. 2).

Strangalia (*Strangalina*) *Koyaensis*, MATSUSHITA, Journ. Facul. Agric. Hokkaido Imp. Univ., XXXIV, (2), 1933, p.219, pl. 1, fig. 7.

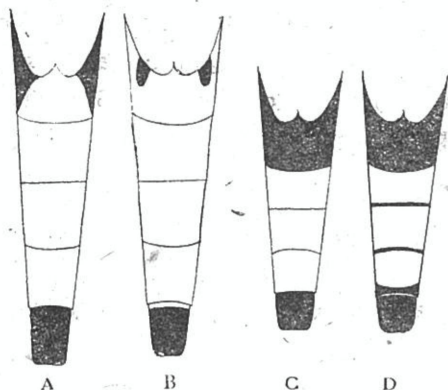


Fig. 2. *Strangalina harmandi koyaensis*

腹部色彩の變異

A. Normal form 雄, B. Aberrant form 雄.

C. Normal form 雌, D. Aberrant form 雌.

觸角の基方4節及び5節の基部は黒色、以下先端節迄黄褐色を呈する。腹部は雄にあつては尾節及び第1腹節前縁の兩側、雌では第1腹節及び尾節が黒色を呈するが他は美麗なる橙褐色を示す。但し腹部の色彩には個體變異がある。

本州西南部の主として山地に分布し、現在知り得た産地は高野山・大臺ヶ原山・南紀川湯温泉等である。

後述の如く兩亞種共腹部の色彩には個體變異が見られ、*harmandi harmandi* に於ても幾分橙色を現はしてゐるもの(目下の所は雄のみ)があり、

harmandi koyaensis でも黒化傾向を示す個體が見られる。今の所この變異は連続して居らないが更に多數の個體を検する時、外見上連続して一連の變異幅を形成するやうになるかもしれない。しかし之は個體變異と地方變異(地理的變異)の錯綜を意味するにすぎず、平均値に於て兩者は明瞭なる差異を示す。即ち中部山岳地方には腹部の黒色なもの、西南日本には橙色なものが他の型よりも壓倒的に多く出現するもので、この兩者を一定域に發生するRace、即ち亞種と見做し、腹部に現はれた若干の變異は夫々兩亞種の特有な變異幅内に於ける個體變異と考へるのが妥當の様に思はれる。之に加へて觸角の色彩は兩者共略固定的で、之は一層別亞種に分ける事の妥當性を裏付けるものであらう。

兩亞種の分布狀況は明かでないが、中部山岳地方以北の寒地には *harmandi harmandi* を、西南日本の如き暖地には *harmandi koyaensis* を産するのではないか

※ 本州の比較的寒地からの記録は前記松下博士⁽⁵⁾のもの及び中島氏による信州島々谷⁽⁴⁾、鯉島氏⁽⁷⁾による信州上高地⁽⁸⁾、千浦氏による信州八ヶ岳⁽⁹⁾、黒澤氏による置賜盆地等の記録を検し得たが、玉貫氏も本州北部に分布する事を認めてゐる。但し残念乍ら松下博士の記載以外は單なる採集記録にとどまり色彩に就いての記載はないし、又黒澤氏は學名の次に“?”を附されてゐる。四國からの報告は松下博士、及び大久保・和田兩氏に依つてなされた。後者は單なる採集記録にすぎないが前者は色彩について言及し、觸角黒色、末端3節僅かに褐色、腹部第1節が黒色を呈すると記載した。之は1頭の雌に依つて記録されたものである爲腹部第1節の黒色を呈する事は當然であるが、觸角の色彩は興味深い。今後の調査が必要であらう。

と推定される。

尙玉貫氏は⁽¹⁰⁾ ab. kurohara を記載してゐるが、之は恐らく harmandi harmandi と同一物を指すのではないかと考へられる。

個 体 的 變 異

1. 翅鞘上の斑紋 (Fig. 3.)

兩亞種間に於て差異を認める事は出来なかつた。各黄帯にはその形状、及び面積の變異が相當見られるがその變異に一定の方向は認められない。第1紋は獨立し、雌は雄に比し各黄帯の幅廣く、特に第2帯と第3帯とが縫合部に沿つて延長する傾向が強く、その連續してゐるのが1個体 (Fig. 3A) みられた。第4斑 (Fig. 3A-D) は雌のみに限らず、雌雄共に見られ、雌の方が出現頻度が大きいし、且つ發達の度も雌に於て顯著なもの多く一見別種の如く感じられるもの (Fig. 3D) があるが、雄では出現しても餘り大きいものは見られない。斑紋の大きさに就いては第4斑紋と他の黄帯との間に相關現象は見られない尙平山修次郎氏は第3帯を全欠する個体があると記されたが今回の調査ではかかる個体に接し得なかつた。

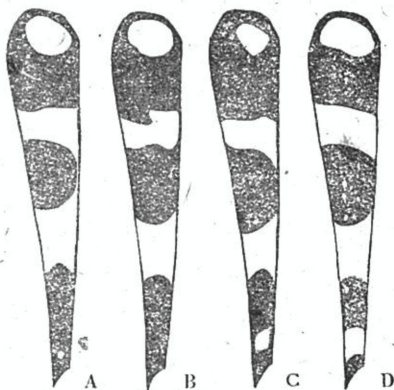


Fig. 3, *Strangalina harmandi* 雌翅鞘黄帯の變異, 第4斑の出現及び第2, 第3帯の連續を示す。(中部山岳産)

2. 肢の色彩 雌雄共中後肢の腿節基半, 前肢の腿節全部は黄濁色を呈するが、個体により前・中肢基節先端が黄色を呈したり、前・中肢脛節が幾分暗色を帯びるもの等がみられ、中・後肢腿節の黄色部には個体により可成りの増減がある。

3. 觸角の色彩 前記。

4. 腹部の色彩

i. harmandi harmandi (Fig. 1.)

全部で21個体檢したが雌 (8Exs.) に於ては全く黒色を呈し變異は見られなかつた。雄 (13Exs.) 中多少なりとも橙褐色を現はしてゐるものは5例を認めたが何れも harmandi koyaensis の如き明色を呈するものではなく暗色を呈してゐる。この變異がかかる伴性的なものか否かは今後の調査に俟ちたい。

ii. harmandi koyaensis (Fig. 2.)

最も黒化したと思はれるものでも後述の (i) 程度のものに過ぎない。多少なり

※ 個体數の不足により今回は單に色彩の問題のみを簡單に記述するに止めた。

とも黒化又は淡化？してゐる個体としては次の5例を見た。

- (i) 第4節の末端 $\frac{1}{4}$ が黒色を呈し、第2・3節の後縁が狭く黒化した雌 (Fig. 2D).
- (ii) 尾節の基方が狭く橙褐色を呈し、第1腹節前縁兩側の黒色部が小さくなった雄 (Fig. 2B)
- (iii) 各節末端の黒化した雌 (林匡夫氏よりの通信による)
- (iv) 第4節の先端が黒化した雌 (同上)
- (v) 第1節末端中央を残して黒色を呈する雄 (同上)

III. 摘 要

1. 現在 *Leptura* (*Strangalia*) *harmandi* PIC, 1901 は *Strangalina duodecimguttata* (FABRICIUS, 1801) の synonym とされてゐるが兩者は別なものである。
2. しかも *Strangalina koyaensis* (MATSUSHITA, 1933) は *Leptura* (*Strangalia*) *harmandi* PIC, 1901 の一地方的變異 (亞種) と見做される。
3. *harmandi* は中部山岳地方のものと西南部日本のものとは夫々別亞種として區別さるべきもので夫々次の如く整理する。
Strangalina harmandi harmandi (PIC, 1901) (中部山岳地方亞種).
Strangalina harmandi koyaensis (MATSUSHITA, 1933) (西南部日本亞種).
4. *Strangalina harmandi* に於て翅鞘、肢等の色彩に就いての個体變異は兩亞種の間に差異を認めない。
5. 腹部の色彩は夫々の亞種に依つて特有の變異幅を持つ。

IV. 主 要 文 献

1. PIC, M. : *Coleopteres Cerambycides recueillis au Japon par M. le Dr. HARMAND*, Ministre plenipotentiaire de France a Tokio, Bull. Mus. Hist. Nat. Paris, VIII (2), (1901).
2. MATSUSHITA, M. : Beitrag zur Kenntnis der Cerambyciden des Japanischen Reichs, Jour. Fac. Agric. Hokkaido Imp. Univ., XXXIV (2), (1933).
3. 松下眞幸: 四國から未記録並びに稀少な天牛類, 昆蟲世界, XL (471), (1936).
4. 中島俊秋: 信州産天牛科目録 (第一報), 昆蟲界, V (39), (1937).
5. 大久保一治・和田豊州: 土佐を中心とする四國産天牛目録, あきつ, I (3), (1937).
6. MITONO, T.: Catalogus Coleopterorum Japonicorum, 8, Cerambycidae, (1940).
7. 鯨島政明: 上高地附近の花天牛 (追加), 虫の世界, IV (1), (1941).
8. 千浦芳郎: 信州八ヶ岳産の天牛科, 昆蟲界, X (105), (1942).
9. 黒澤良彦: 置賜地方昆蟲雜記(3), 昆蟲界, X (106), (1942).
10. 玉貫光一: 日本動物分類, 花天牛科, II, (1942).

(Oct., 1946)